

論文審査の結果の要旨

氏名 米田雅子

本論文は、「地方建設業の農業・林業参入に関する研究-過疎の進む地域を対象として-」と題し、過疎の進む地域において、地方建設業が農業、林業のそれぞれに参入する場合の課題を、建設業からの視点で明らかにし、対応策について考察したものである。地方建設業、農業、林業それぞれの現状を把握したうえで、農業に参入した地方建設会社および林業参入を目指している地方建設業と林業・木材産業関係者を対象として、課題などについてのヒアリング調査を行い、得られた結果の重要度をアンケート調査によって示している。その結果を整理したうえで、これらの知見に基づいて、地方建設業が農業・林業に参入する場合の対応策について考察されているものであり、全8章からなる。

第1章では、研究の背景について述べ、建設業から農業・林業それぞれへの参入を取りあげることと、経営、制度、業種の相違など幅広い課題を対象とする本論文の位置づけを述べている。

第2章では、地方建設業の現状について、統計資料などから公共事業の大幅な縮小の実態、地方においてその影響がより大きくなること、特に研究の対象となる中山間地域などの過疎地ではその影響が深刻であることを述べている。

第3章では、建設業の農業参入の現状を把握するために、農業の現状と課題について考察し、農業参入した事例にもとづいて、参入に3つの形態があること、農地法の制約などの課題があること、機械力などをいかす有利な点があることを述べている。

第4章では、農業に参入した地方建設会社にヒアリング調査を行い、具体的な課題を列挙し、得られた結果の重要度をアンケート調査によって示している。その結果を整理したうえで、これらを分類して、事業性の確保、技術・ノウハウの習得、資金の調達、業習慣の相違、制度上の課題に分け、それぞれ考察を加え、その結果をもとに対策について論じている。

第5章では、建設会社の林業参入について、各種の統計などをもとに現状について整理し、林地の団地化、機械化等の推進、林業就業者を増やす必要性、林業に関わる諸制度の複雑さ、森林情報の不明確さなどの課題があることを述べている。

第6章では、林業参入をめざしている地方建設業と林業・木材産業関係者にヒアリング調査を行い、具体的な課題を列挙し、得られた結果の重要度をアンケート調査によって示している。その結果を整理したうえで、これらを分類して考察し、建設業と林業者との連携などの可能性があることなどを論じている。

第7章では、3章および6章の調査結果をもとに、建設業の農業・林業参入において、事業性の確保、技術・ノウハウの習得、資金の調達、業習慣（業種毎の習慣）の相違、制度上の課題の5つの項目ごとに、その課題について考察し、対策について論じている。

また農業参入と林業参入の比較、調査時点以降の動きについても述べている。

第 8 章は結論であり、これまでに得られた知見から結論を述べ、本論文で残された課題について考察している。

以上、本論文は、地方建設業の農業・林業参入について、建設業の立場から、技術や機械力をいかす可能性を示しつつ、事業性の確保、技術やノウハウの習得、資金の調達、業習慣の相違、参入に関わる制度などの具体的な課題を整理し、これらの知見にもとづいて農業・林業に参入する場合の対応策について考察されたもので、社会文化環境学の発展に貢献するものである。

したがって、博士（環境学）の学位を授与できるものと認める。